

科 目 名

人間と教育Ⅱ

Human and Education Ⅱ

1年 後期 2単位 選択

柿 塚 純 男

概 要

教育制度の基本法として教育基本法があり、これを基に教育関係法が体系化されている。その中で、学校制度に関しては学校教育法がある。更に、その学校教育をサポートするため地教法や標準法がある。教師論を加味すると、地公法があり、特に特例法としての教特法がある。それらの法規を踏まえて学校制度を考える必要がある。学校制度は、近代的な学校としては明治時代に登場するが、特に戦後教育の初期に、国民教育の知的レベルの水準の維持向上のため、より制度化されたものである。学校は公の性質をもつものであり、法令に則って行われる学校教育は、国民全体のためなさねばならない。学校が公教育としての使命を果たすためには、学校運営の基盤に法的な根拠が求められる。そこを起点として、本講義を構成する。

目 標

学校教育に関する法令を基に、現在の学校教育制度に至る歩みをたどり、今求められている学校の在り方等についての理解を図る。

授業計画

テ ー マ	内 容
(1) 学校制度とは…。	・学校の制度の歴史を知り、学校の意義、役割を考える。
(2) 旧教育基本法と現教育基本法からみる期待される学校	・新旧の教育基本法を比較して、学校制度を考える。
(3) 国民が期待する児童生徒像	・データ等を基に、今求められる児童生徒像を考える。
(4) 国民が期待する教育と教師論	・データ等を基に、今求められる指導者像を考える。更に地公法、教特法に触れる。
(5) 家庭教育論	・教育基本法の条文を基に家庭教育の重要性について考える。
(6) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律	・国、都道府県、市区町村の関係、役割について考える。
(7) 地公法の特例法である教特法からみる教師論	・教職員の研修の意義と学校教育の質の向上について考える。
(8) 学校教育法からみる児童生徒への教育期待論	・学校が果たすべき役割について考える。
(9) 教育課程編成①（学習指導要領とカリキュラム）	・学習指導要領の変遷の歴史をたどる。
(10) 教育課程編成②（学習指導要領とカリキュラム）	・新学習指導要領の改訂の趣旨等を理解する。
(11) フィンランドの学校制度①	・PISA 調査からフィンランドの教育及び学校制度を考える。
(12) フィンランドの学校制度②	
(13) 地域に根ざす学校経営①保護者が期待する学校論	・保護者が期待する学校、地域に根ざす学校経営とはどういうものか考える。更に、特別支援教育制度にも言及する。
(14) 地域に根ざす学校経営②保護者が期待する学校論	・コミュニティスクールと学校評価制度、今期待される学校像を探る。
(15) 定期試験	

授業方法

授業は、講義を中心に進め、必要に応じて演習・ディベート等で展開予定。

学習到達度の評価

- (1) 適宜、小レポートを課し、学習の到達度を評価する。
- (2) 授業中のフェイス トウ フェイス、並びに、学びの姿勢で評価。

評価方法

皆出席を前提に、授業中のレポート並びに試験で総合評価。

教 材

参考書は負担にならない範囲で適宜紹介・購入出来る限りプリントを用意する。

科 目 名

人間と教育Ⅱ
Human and Education Ⅱ

1年 後期 2単位 選択

和田英武

概 要

我が国の最近の教育界には解決困難な問題が山積し、その背後には戦後約半世紀以上に及ぶ教育制度の老朽化の問題が存在している。そこで、今、われわれに必要なものは、教育制度に関する基本的な知識と理解である。

本講座は、教育制度の問題を教育的にいろいろな観点からみていく。このことは人間に関する諸問題及び現代社会や科学の問題を考える際にも広い視野を与えてくれるであろう。

授業計画

回	学 習 内 容	評 価
1	オリエンテーション 第1章 教育制度とは何か 1 教育制度とは? 2 教育制度の種類	
2	第2章 学校制度の歴史 第1節 古代ギリシアの学校制度	前回の復習(記述)
3	古代ギリシアの学校制度(つづき)	”(”)
4	第2節 ヨーロッパ中世の学校制度	”(”)
5	ヨーロッパ中世の学校制度(つづき)	”(”)
6	ヨーロッパ中世の学校制度(つづき)	”(”)
7	第3節 ヨーロッパ近世の学校制度	”(”)
8	パブリック・スクール、オックスブリッジ	”(”)
9	第4節 ヨーロッパ近代の学校制度(19世紀) ～公教育制度の誕生～	”(”)
10	第5節 日本の学校制度 古代～近世	”(”)
11	明治～第2次世界大戦	”(”)
12	第3章 我が国における戦後の教育制度 第1節 戦後の教育制度の変遷	”(”)
13	第2節 現行の教育制度	”(”)
14	現行の教育制度(つづき)	”(”)
15		定期考査

授業方法

- ・本講座用テキスト中心の授業(ときどきビデオ鑑賞を取り入れる。)
- ・毎回、前回の復習を行う。

評価方法

- ・定期考査(80点)、前回の復習(20点)。60点に満たなければ再試験を実施する。
- ・前回の復習(記述)による評価は、前回の授業の概要と設問2～3から成る。

教 材

本講座専用のテキスト：和田英武 著「人間と教育Ⅱ(教育制度論)」